

平成30年度 第57回岐阜県学校保健研究大会を終えて (第39回東海ブロック学校保健研究大会)

飛騨市学校保健会

紅葉が眩しい秋晴れの10月28日、飛騨市文化交流センターのスピリットガーデンホールにおいて、県内外から約430名の学校保健関係者を得て、研究大会が開催されました。

『児童・生徒の健康の保持増進、保健教育の推進』という大会テーマのもと、開会式では、岐阜県学校保健会会長の河合直樹様のご挨拶や飛騨市市長都竹淳也様をはじめとするご来賓の皆様によるご祝辞をいただく中、盛会に行うことができました。

岐阜県学校保健会表彰では36名の方が表彰され、学校環境衛生活動優良校表彰では32の幼児園・小中学校・高等学校が表彰されました。

次いで『健康に生きるために良い生活習慣をつくる児童・生徒の育成をめざして』をテーマに、生涯を通して健康に生きるために、自らの心身の健康課題に気付き、自らすすんでより良い生活習慣を実践、継続できる子を目指した飛騨市学校保健会の実践を発表しました。

学校ごとに実施していた実態調査を平成18年に独自作成した『生活習慣見直しシート』によって全市統一で行うように改善しました。



その結果に基づき、学校保健計画の立案や児童生徒の委員会活動等の工夫、集団への保健教育や個別への生活習慣指導に生かしました。

また、各学校の実態に合わせて「健康教室」を実施したり、家庭や地域と連携したりしながら実践を積み重ねてきました。

大会当日は、数多くの実践の中から『眠育の取組』と『歯と口の健康の取組』の二点に絞って発表しました。

- ・確かな実践で説得力があった。
- ・わかりやすく、親の立場でもドキッとした。
- ・継続した取組の大切さを実感した。
- ・家庭までもって行かれたのが、良い方向に向

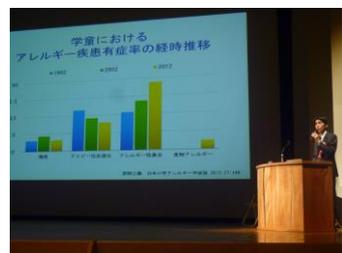
かえたのだと思う。

- ・具体的な実践がたくさん盛り込まれており、本校にとっても、とても参考になった。
- などといった感想が聞かれました。

お昼のアトラクションは、歌舞伎に取り組んでいる河合小学校の児童による『白波五人男』が披露されました。話し方や立ち振る舞いの難しい歌舞伎を堂々と演じ、迫力のある見得の瞬間には、「よっ。日本一！」などといった声があがり、大歓声に包まれました。



午後は『学校生活におけるアレルギー疾患への対応』と題し、富山大学小児科学講座教授の足立雄一先生による記念講演が行われました。アレルギー疾患の子どもが増加し、学校や園で対応に苦慮する中、食物アレルギーを中心に、学校や園でどのように対応すればよいのか、についてお話しいただきました。参加者からは、以下のような感想が聞かれました。



- ・初めてアレルギーの話聞く機会をもてた。
- ・実例的な話しで理解しやすかった。
- ・対応訓練の必要性を強く感じた。
- ・子どもの危機管理能力をつけることは考えていなかった。気づかされた。

このように、飛騨市学校保健会が組織的・継続的に取り組んできた実践を理解していただきました。また、参加された方に高い満足感と危機管理体制の必要性を実感していただくことができました。とても有意義で充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜物と心より感謝いたします。

最後に、岐阜県学校保健教育のますますのご発展を祈念いたしまして、第57回岐阜県学校保健研究大会の報告といたします。